

## 国際NGOプラン・ジャパン 第3回国連防災世界会議に参加 「安全文化の確立に向けて～災害に強い学校と防災教育の推進～」 緊急災害対策専門家、被災から立ち上がったカンボジアの女の子らが提起

国際NGOプランの一員である、プラン・ジャパンは、第3回国連防災世界会議(3月14日～3月18日)に参加します。「災害の世紀」という言葉が生まれるほど気候変動による災害が増えている中、子どもたちは最も弱い立場に置かれます。子どもたちの視点から見た防災と子どもたちの復興への参画は、災害に強い地域の形成に欠かせません。世界各地で活動するプランの緊急災害支援の専門家と洪水被害を乗り越えた体験を持つカンボジアの20歳の女の子が本体会議に参加し、新たに採択されるポスト2015年行動枠組の中に、防災と災害復興における子どもたちの視点と参画が取り入れられるよう提起します。

### 1. 女の子の視点から防災に参画：カンボジアから女の子が来日

イエン・ソフューンさん(Ien Sophoeurn, 20歳)は、カンボジア北西部の米作農業が盛んな地域スレイ・スナムで、子どもたちが地域や学校の防災力向上をリードすることを目的に創設されました子ども議会の議長をつとめました。子ども議会のメンバーは、学校に通い始める年齢にばらつきがあるため、子どもから思春期の若者までさまざま、女の子が7割を占めています。「性別や障がいの有無による差別はありません。女の子の方が積極的に責任のある役目を果たしています」と



ワルストロムUNISDR代表の前で発表

イエンさんは言います。

イエンさんは、住民や住居、家畜や穀物に大きな被害を与える洪水や台風災害の増加をきっかけに、プランを通じて防災のための計画作り、リスク調査、キャンペーン、緊急支援について学習し、子ども、特に女の子の視点を通じた災害に強い地域や学校づくりに関わってきました。「今では行政やNGO、地域の人々が私たちの活動を認識してくれていることがとても嬉しい」と、子どもたちが防災において主体となれることをアピールしています。また、女の子や男の子の視点を防災に取り込むことの重要性を訴えるために、アジア防災閣僚会議(2012年10月、ジョグジャカルタ)、第4回防災グローバルプラットフォーム(2013年5月、ジュネーブ)にも出席経験のあるイエンさんは、「カンボジアで子どもたちが実践している、防災力向上のための地域や学校での取り組みに対して、世界に目を向けてもらいたいです」と述べています。

イエン・ソフューンさん参加予定のパブリック・フォーラム「災害と女の子たち～ガールズ防災会議～」(3月17日 13時)本フォーラムでは、複数のNGOやNPOとともに、災害時の女の子や女性にやさしい支援のあり方、海外の被災地から分かる女の子たちへの暴力と災害、防災と復興における女の子の参画をテーマに取り上げ、海外での取り組みと日本でのこれからの防災・復興支援を考えます。国境を越えて、女の子は災害時に何を思い、どのような社会を望むのか、イエンさんはカンボジア洪水災害からの経験をお話します。

<b>【日時】</b>	2015年3月17日(火) 13:00～16:00 (交流会16:10から40分程度の予定)
<b>【場所】</b>	エルパーク仙台6F ギャラリーホール 〒980-8555 宮城県仙台市青葉区一番町4丁目11番1号141ビル (仙台三越定禅寺通り館)
<b>&lt;登壇者&gt;</b>	
● 開催によせて:	木須 八重子 (公益財団法人せんだい男女共同参画財団 理事長)
● モデレーター・報告:	大崎 麻子 (プラン・ジャパン理事、Gender Action Platformアドボカシー担当)
● スピーカー:	
	ウニ・クリシュナン (プラン 緊急災害支援担当、医師)
	宮原 契子 (公益財団法人ジョイセフ企画マーケティンググループ課長)
	橋 ジュン (NPO法人BONDプロジェクト代表)
	林崎 知美 (女子の暮らしの研究所 研究員)
	スハトラ・ジャヤラジ (IPPF-国際家族計画連盟-緊急復興支援チーム、医師)
◇ 主催:	仙台市/公益財団法人せんだい男女共同参画財団
◇ 共催:	Gender Action Platform/公益財団法人ジョイセフ/ 特定非営利活動法人オックスファム・ジャパン/公益財団法人プラン・ジャパン
	◇ 企画協力: 特定非営利活動法人BONDプロジェクト、女子の暮らし研究所



## 2 プランの緊急支援、災害対策の専門家が国連防災世界会議に合わせて来日—子どもの保護と参加を促進へ

世界各地で、自然災害の頻度と深刻さが増す中で、被災による死傷者数、住居など財産を失う人々も増え続けています。特に子どもたちが災害に巻き込まれやすく、その結果学校を辞めなければならない場合が多くあります。プランは、「災害に強い学校」プログラムをアジア・アフリカ・中南米で展開し、2014年には2,578校、50万人の子どもたちがプログラムに参加しました。3年計画で安全に学べる施設環境、学校での防災教育、防災まちづくりへの子どもたちの参画など通じた子どもたちと地域の災害への対応力の強化を推進してきました。

ポスト2015年行動枠組が、災害からの子どもの保護、防災や復興への参画を促すことは、各国の政府や国際機関が取り組む災害リスク削減政策が、ぜい弱性の高い子どもたちの安全を高め、さらに社会全体に災害に対する安全性を高めることにつながります。

### 災害と子どもたちに関わる指標

- ・子どもたちが自然災害リスクを抱える国々の人口に占める割合は50%-70%
- ・世界で初等・中等教育を受けている1億2000万人の子どもたちの内、地震活動域で生活している割合は70%以上
- ・子どもたちは活動時間の50%以上を学校で過ごす、学校施設の多くは災害に対してぜい弱
- ・ASEAN(東南アジア諸国連合)地域で、過去5年間に被災した学校の数は14500校

## プラン緊急災害支援専門家プロフィール

### ウニ・クリシュナン(Unni Krishnan) プラン緊急災害支援担当、医師

1991年以来、インド、パキスタン、中国、アフガニスタン、ハイチなど、世界各地の災害・紛争地域において、人道支援のコーディネーターや被災者の心理社会的ケアの支援を行ってきた。また、国際機関や国際NGOなどによる人道的な支援ガイドライン策定(スフィア・プロジェクト議長、IASC委員など)にも深く関与。東日本大震災後、今回が4度目の来日となる。



今回は、3月15日(日)のフォーラム「被災者の心を支えるために」にて、災害がもたらす衝撃度、心のケアが復興に重要な理由、人や地域とのつながりの中での心のケアの実践などをエボラ出血熱対策など海外での事例を豊富に交えて分かりやすく紹介します。

<p>&lt;基調講演&gt; 「大災害後の回復力を高めるために～日本と世界への提言～」 ウニ・クリシュナン(国際NGOプラン 緊急災害支援担当、医師)</p>	<p>&lt;お申込み&gt; 日時: 2015年3月15日(日) 13:30~17:00 場所: 東京エレクトロンホール宮城(県民会館)401会議室 定員: 100名 主催: ケア宮城、公益財団法人プラン・ジャパン お申込み: 当日参加も可能ですが、座席確保のため、なるべく事前にイベント担当までお申込みください。入場無料。 Tel: 03-5481-0030(平日9:00~17:30) メール: event@plan-japan.org</p>
<p>&lt;シンポジウム&gt; 司会: 本郷 一夫(東北大学大学院教育学研究科長・同教育学部長・教授) 話題提供者: 膳 三絵(公益財団法人プラン・ジャパン コミュニケーション部) 小澤 義春(支援者のための支援センターTOMONY共同代表) 畑山 みさ子(ケア宮城代表・宮城学院女子大学名誉教授) 会場参加者との意見交換の時間もあります *通訳あり</p>	

イベント告知や当日の取材、個人への取材につきまして、ご検討をよろしくお願いいたします。

### 公益財団法人 プラン・ジャパン

プランは国連に公認・登録された国際NGOとして、アジア・アフリカ・中南米51カ国で、子どもたちとともに地域開発を進める。プラン・ジャパンはその一員。国際的には70年以上の歴史があり、日本では1983年に設立。東日本大震災に際し、日本国内での緊急・復興支援を展開。

このリリースに関するお問い合わせ先

公益財団法人プラン・ジャパン 広報担当 後藤/久保田

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22-11F www.plan-japan.org

☎03-5481-6517 080-3303-6712 goto@plan-japan.org

世界の女の子に、生きていく力を。

